

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

たじま

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

母体の医療法人の理事長は、倉敷市児島で地域住民が健康で生活できるよう個人開業医として医院を開業して以来、患者が治療のための入院施設、治療後自宅に帰って生活できるようリハビリセンターを開設して、入院後の患者や家庭での生活が困難な人のリハビリテーションを重要な措置と考えてきた。リハビリとは病後や傷害後に家庭で生活を始めるに当たっての身体的なリスクを取り除く、又は改善していくための医療措置だろうと考える。家庭だけでなく生活困難な人を受け入れて、少しでも本人の機能回復や家庭の人の介護苦悩を軽減するためにデイサービスセンターも開設し、どうしても家庭では生活が難しい認知症の人が、今までの生活を地元で続けるために認知症対応型のグループホームを開設して医学と介護を一本化させ、病気から障害を克服する生活まで安心・満足・信頼の気持ちを持って医師・看護・リハビリ・福祉・介護の専門家が連携して、一人ひとりの人間のリスクを除去・軽減・補填でき、安心して楽しい生活が送れるよう多くの人手と気持によって支援していこうとする理事長の思いがどんどん現実に地域の中に定着してきた。そして、地域の人の願いも受け入れて、一昨年前の平成19年4月に2軒目のグループホームが開設され、安定した運営がされている様子を見せてもらった。

グループホームの理念として理事長の思いが込められている。『入居者の皆様一人ひとりの自由と意志を尊重し、満足と信頼が得られる個々のサービスを提供致します。入居者の皆様が他の人達と交流を持ち、自分らしく生き生きとした生活が送れるよう職員一同懸命に努力します。入居者の皆様がご自宅と同様の生活が送れるよう環境を整え、喜びのある暮らしがでいるようお手伝い致します。入居者の皆様が安心して生活が送れるよう健康管理・医療は隣接の田嶋内科、内科いこいの家が、ご家族とも相談の上随時対応させていただきます』この理念の中に、認知症になっても普通の人として地域の中でいつまでもその人らしく生活していただきたいという願いが込められている。

人間の基本的な機能は、「食べる」「排泄する」「動く(歩く)」の3つであり、その機能が活発であればある程、人間は楽しく元気に生活ができると考えられる。理事長は、リハビリセンターを使って、日曜日を除く毎日朝9時半から10時半までの1時間、入院している人、デイサービスに通う人、グループホームで生活する人を集めて、体操やゲーム、トークと唱、踊りなど身体を動かして、脳を使う等の人間の機能維持又は回復に努めている。そして、一人ひとりに声かけ、激励づけをして毎日、このリハビリを欠かすことがないリハビリ道場(?)はこの法人の最も大きな特長と云える。

特に改善の余地があると思われる点

このホームの介護計画は、生活に対するリスクの発生原因にも踏み込んだ良いプログラムになっているので、医学的な要素も取り入れて、利用者の先行の状態を予測した上でのケアをどのようにしていけば良いのかのケアプランになるともっと良くなるだろうと思う。ケアプランのモデルとしても検討をしてもらいたい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：しっかりした理念があり、それを要約したモットーのようにホームでは職員がよく理解して、日常のケアに生かしているため改善することはない。</p> <p>2、全体的に見て…：「職員の表情や行動は利用者の鏡であり、利用者は敏感に察するので職員もゆったりと笑顔のある行動をしている。例えばご飯の時間が少し遅れても、職員はドタバタ走らないで、ゆっくりと利用者に関わっていきう。笑いが大切で、利用者ともゆっくりと話す機会を持って、気持の通いをしっかりとしていこう。そして一日一回は大きな声で笑えるようにしよう。利用者の個人生活を自由にして、職員との馴染みを大切にしていこう」と2人の管理者はホームに対する思いを語ってくれた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：この地域にある医院・リハビリセンター・デイサービス・グループホーム(2ヶ所)が総合した医療・介護・生活を一体化した地域住民の生活の場とあって良い。そしてこのグループホームの利用者は本当の地域密着型と云えると思う。</p> <p>2、全体的に見て…：このグループホームは、病院や他の施設と少し離れた小高い山の一劃の広々とした敷地の中に洒落た住まいを思わせる建物である。山の下にある小学校の学童が登下校に通う通路に沿ってホームがあり、学童と利用者が手を振って毎朝毎夕挨拶している。時々、地域の人がトイレを貸してとホームを訪れるそうだ。段々地域の人々にもホームの存在が認識されてきた。利用者は木がふんだんに使われている建物の中で、ゆったりと元気に、笑顔の中で個々の生活が一番との思いで落ち着いている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	評価	不能
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネジメントに関しては管理者と職員と一緒に利用者の尊厳を大切に、ケアプランもしっかりした考えで一人ひとりの機能維持のためにケアの着眼点をしっかりと掴んで介護項目や目標を設定しているため、このまゝ続けていってほしいと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：病院や大型施設、家庭で認知症の人が精神的に不安定になり、人間としての機能が低下してしまった人が、ホームに入所してから職員の温かい気持に触れ、仲間との生活に安心して、職員のケアによって人間機能の回復の事例が多く見られる。食欲がなく、食事を摂らなかつた人が、リハビリに通う中で食欲も増し、表情も良くなり、しっかりと食べるようになって元気になった。歩けず車椅子でしか移動できなかった人が杖で歩き、今は自立歩行できるようになった。このように一例であるが、人間としての生きる力が出て、家族も大変喜んでくれている人が多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：管理者も2年が経過して、自分なりにホームの運営に足が地に着いたという感じで、自信を持って運営に当たっている。院長や看護師がホームにもよく来てくれ、ホームの様子を見たり、相談にも乗ってくれるので安心してホーム運営に当たっている。地域との連携については、法人全体で考えて実行している。ホーム単独ではその行動の中で推進している。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームとしては、今立地しているこの地域の人との付き合いがどんどん進んでくれるので、利用者も目を細めて喜んでくれている。畑で土いじりをしていて近所の人が犬の散歩の時立ち寄り寄ってきて、話しをしたり犬と遊ぶのも楽しい。上の団地の運動会にも参加すると、知り合いの人が声をかけてくれ、面会を喜んだ。開設して2年であるが、地域の人達との交流が進んでいる。</p>		